異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）（販売開始から平成19年9月30日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
230	B-07000087	男性	17歳	75 mg	塩酸セチリジン	異常行動 自殺企図	回復 回復	インフルエンザB治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。夕方、洗面台の上に立ち上がり、自殺すると20分ほど叫ぶ等の異常行動発現。その後、リビングをかけまわる。ピョンピョンとぶ。「もうダメだ、どうにもならない、外に出ないと」と興奮。発現4時間後、落ちつくが、本人は覚えていない。夢の中で何か興奮していたと本人は言っている。翌日、舌がマヒ。服用4日目、異常行動回復。
231	B-07004079	男性	17歳	150mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。夜、突然トイレに行き、その後ロックを外し外に出ようとする。ベランダに出た時は飛び降りようとしたので、母親が必死に止め、事なきを得た。 翌日、異常行動回復。
232	B-05025437	男性	18歳	150mg	アセトアミノフェン 塩酸アンブロキソール	異常行動	回復	A型インフルエンザにてリン酸オセルタミビル服用開始（39.1℃）。2回目服用2.5時間後に突然寝ていたが起きだし、外に飛び出し15分後に戻る。その間記憶なし。翌日（36.7℃）外来受診し本剤中止、異常行動回復。
233	B-06026848	女性	18歳	150mg	麻黄湯 アズレンスルホン酸ナトリウム	転倒 自傷行動	後遺症 回復	本年3月19日、インフルエンザBと診断。リン酸オセルタミビル5日分等処方される。 処方5日目（3月23日）朝、本剤75mg服用し、その後本剤の服用はしていない。微熱は続いていたが、咳、痰はなかった。 3月25日朝より手首を傷つけたり、死にたいなどと口走るようになり、家族が気をつけていたが昼頃2階の窓より飛び降りて胸腰椎を骨折。
234	B-07013137	男性	18歳	150 mg		異常行動 異常行動	不明 回復	以前、リン酸オセルタミビルを服用し、外に飛び出る異常行動発現。 A型インフルエンザ（体温39.2℃）に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、家から飛び出ていた。本人は何故家から出たかの記憶がない。本剤服用中止。
235	B-07013376	男性	18歳	150 mg		異常行動	回復	夕方、B型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。1回目服用2時間後、暴れて外に飛び出そうとしたところを父親が確保。 服用2日目、夕方、本剤服用後も暴れるが、父親が確保。 服用3日目、朝、本剤服用時には症状は発現しなかった。夕方、本剤服用。本剤3日間服用し、インフルエンザ症状は回復。2回の異常行動について本人の記憶はなかった。

異常な行動が記録されている事例の概要(年齢順)(販売開始から平成19年9月30日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
236	B-05022154	男性	19歳	75mg	ジクロフェナクナトリウム 臭化水素酸デキストロメトルファン 塩化リゾチーム アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン クラリスロマイシン バファリンA	激越 落ち着きのなさ	回復	高熱(40.2℃)のため、受診。 咽頭部の発赤、腫脹あり。本剤、ボルタレン他を処方。 帰宅後、本剤、ボルタレン他を服用し、38℃に解熱。 その後、嘔吐し、睡眠する。本剤の服用は中止している。 突然覚醒し、興奮状態(大声を出し、興奮状態でドアをこぶしで叩き壊し、膝蹴りなどでテレビを割るほど殴る:3～4分間)となり、両手甲部に外裂傷。 3時間半後、体温39℃になり、精神状態も落ち着く。 翌日、体温37℃、不穏状態、興奮状態は回復。
237	B-06005344	女性	19歳	150 mg	酒石酸ゾルピデム エチゾラム 非ピリン系感冒剤(4)	自傷行動 健忘	回復 回復	インフルエンザ(診断確定未実施)治療のためにリン酸オセルタミビルの服用を開始した。投与開始から5日目に自傷行為と記憶消失が発現し、約5時間後に回復した。服用開始から6日目にインフルエンザが軽快している。
238	B-07007066	男性	19歳	75mg	アセトアミノフェン 葛根湯	異常行動	軽快	前日昼頃、発熱、咳、鼻汁の症状あり。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェンを服用し帰宅。服用1時間後、うつろで状態がおかしかった。服用4時間後、大声で叫んだり、わめき錯乱したような状態で、家族の制止聞かず自室からでていこうとするような異常行動あり、救急車にて搬送。経過観察が必要と判断し即入院。
239	B-05023219	男性	20歳	150mg	不明	躁病	軽快	躁うつ病の家族歴あり。 発熱(39.4℃)、咳、鼻症状にて確定診断後本剤処方。夕刻39.7℃内服開始。 翌朝36℃台となるが、夜寝ようとしてもソワソワして眠れなかった(躁状態)。本剤の服用が終了しても、躁状態継続し、歩き回り、入院となる。
240	B-06022861	男性	20歳	150 mg	塩酸プロカテロール	異常行動 過換気	軽快 回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル投与。当日、異常行動、過換気発現。寝ようとしたら急に不安になって叫びだしたりした。約5時間睡眠後、異常行動軽快、過換気回復。
241	B-07013249	女性	20歳	75 mg	アセトアミノフェン 塩酸ブロムヘキシン 酪酸菌製剤 ポビドンヨード 塩酸エプラジノン	譫妄 異常行動	回復 回復	A型インフルエンザに対して、リン酸セルタミビル処方。服用後、数時間でうわごと、フラフラと無意識に歩行(この段階では高熱状態継続)。服用2日目、母親、患者の判断により、本剤中止。熱はほぼ平熱に低下。異常行動は回復。

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）（販売開始から平成19年9月30日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
242	B-07003477	男性	23歳	75 mg	塩酸アンブロキソール 塩酸セフカペンピボキシル レバミピド アセトアミノフェン 塩酸モサプラミン リスペリドン 塩酸ビペリデン クロルプロマジン・プロメタジン配合剤（1） ニトラゼパム カルバマゼピン フルニトラゼパム	異常行動	不明	A型インフルエンザと診断され、塩酸アマンタジン、カルボシステイン、塩酸セフカペンピボキシル、レバピミド、アセトアミノフェン(頓用)処方。精神病薬を服用している。塩酸アマンタジンからリン酸オセルタミビルに変更。帰宅し本剤服用後、自宅マンション6階から飛び降りる。患者は一命を取り留めるが、現在身体障害者となっている。 なお、患者はもともと熱を出すとフラフラする体質で、異常行動を起こす前にもめまい等起こしている。 (2004年の症例)
243	B-07013331	男性	23歳	150 mg		異常行動	回復	インフルエンザ陽性に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。服用開始5～6時間後（夕方）に急に玄関に飛び出し、玄関前にてぼーっと立ってぼんやりしている所を親が発見した。その後、意識は回復。患者はその事を覚えていないとのこと。
244	B-07003186	女性	24歳	150 mg		異常行動 感情不安定	回復 回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。服用後、熱がさがった。 投与開始2日目、元気になった。夜、異常行動、感情失禁発現。吐き気あり。気分が高揚し、走り出したい気分となり、何をみても笑いが止まらない状態となった。自制しようとする意識もあるが、走り出したい自分を止められず、家族に助けを求める。発現1時間後、大声で笑いが止まらない。そのうち笑いが止まらないことに対して泣き出す。見当識障害多少あり。 投与開始3日目、朝、ほぼ元通りの人格に戻った。
245	B-06025316	男性	26歳	150 mg	クラリスロマイシン リン酸ジメモルファン 塩化リゾチーム アセトアミノフェン ジクロフェナクナトリウム	自殺企図	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用後、異常行動（自殺企図：マンションの渡り廊下に登ろうとする。何かにおびえた様子で「死んでから謝ろうと思った」と発言）発現。 落ち着いてから話をすると自分のとった行動に記憶があり、当時不安になるような心当たりはまったくないとの由。 翌日、約2時間後に再び異常行動。

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）（販売開始から平成19年9月30日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
246	B-03001089	男性	28歳	75mg	クラリスロマイシン セラペプターゼ 消化酵素 耐性乳酸菌	気分変動	回復	発熱、咳、咽頭痛等有り受診、A型インフルエンザと診断。治療目的にてリン酸オセルタミビル投与。本剤投与10分後、気分変調有り、何をするか分からない（例えば刃物を振り回すかもしれない）感じがした。玄関の辺りでドアを蹴飛ばしたりした後、倒れていたため、救急搬送される。病院にて処置を受けた後帰宅。その後、症状回復。
247	B-07001666	男性	30歳	150mg	アモキシシリン	異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。 服用3日目、寝ていていきなり起きあがり包丁を持つ。 服用4日目、寝ていていきなり、道路に飛び出した。 服用5日目、本剤服用中止。 中止1日後、意識清明。
248	B-06025192	男性	32歳	75 mg	葛根湯 ロキソプロフェンナトリウム	異常行動	回復	発熱あり。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服薬4時間後に錯乱状態となり、自宅2階から飛び降り、足を骨折。 骨折のため、他院を受診、その際意識もはっきりしており、体温も36℃台であった。 4日後、整形外科で手術。 入院中、意識レベル正常、異常行動回復。
249	B-06026629	女性	32歳	150 mg	維持液（3） アスコルビン酸 スルピリン・アミノプロピロン配合剤 フルスルチアミン 塩酸リンコマイシン	意識消失 健忘 脱毛症	回復 回復 軽快	リン酸オセルタミビル服用3時間後、夜目が覚めて気がついたらトイレに行っていた。その間の記憶がない。
250	B-07013314	女性	32歳	150 mg		幻覚	回復	インフルエンザに対して（体温は39～40℃）で、リン酸オセルタミビルを服用開始。同日夜、幻覚がみられた。（階段をかけ下りる。） 服用3日目、口内炎が発現。本剤中止。その後、幻覚は回復。

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）（販売開始から平成19年9月30日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
251	B-03000831	女性	35歳	150mg	アセトアミノフェン 安息香酸ナトリウムカフェイン 開始液 セフポドキシムプロキセチル 塩化リゾチーム dl-マレイン酸クロルフェニラミン サリチル酸ナトリウム 鎮咳剤 アスコルビン酸・L-システイン カルボシステイン	不安 知覚過敏	回復	発熱（38～39℃）、頭痛、関節痛、咽頭痛、咽頭発赤、不穏状態にて本剤投与開始。 翌日の夜中、不眠、不安発現。服用中止。 翌日、幻覚発現し、来院。その後も興奮状態続き、知覚過敏が発現。 その2日後、不眠、不安、興奮状態、知覚過敏、幻覚は次第に消失。 その5日後、回復
252	B-06026663	女性	40歳	150mg	炭酸リチウム バルプロ酸ナトリウム エチゾラム ロフラゼプ酸エチル マレイン酸フルボキサミン	不思議の国のアリス症候群	回復	インフルエンザB型と診断。リン酸オセルタミビル75mg投与後比較的早く、浮遊感が出現。マンション4階に居住しているがベランダから下をみるとあたかもすぐ近くに地面があるかのごとくの錯覚あり。 鳥の姿がみえるなどの幻視もあったが夫に止められ事なきを得た。
253	B-06026707	男性	45歳	150mg	レバミピド セラペプターゼ ヒベンズ酸チペピジン 塩酸エピナスチン	意識変容状態	回復	A型インフルエンザの診断にて、リン酸オセルタミビル150mg/日処方。歩行中、自分の前後の記憶が一部飛んでるのに気付く。また、踏切の遮断機がおりているのに気付かず、踏切板が頭に当たって恐怖を感じる。
254	B-07000244	女性	48歳	150mg	非ピリン系感冒剤（4） カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン 鎮咳配合剤（1） ジクロフェナクナトリウム 酢酸リンゲル液（ブドウ糖加）（2－2）	錯乱状態	回復	インフルエンザAと診断。午後よりリン酸オセルタミビル服用開始。投与4日目、朝から何度も外出しようとして家族に連れ戻される。午後より、訳のわからないことを言いはじめる。投与5日目、錯乱状態。

異常な行動が記録されている事例の概要(年齢順)(販売開始から平成19年9月30日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
255	B-06004486	男性	49歳	150mg	非ピリン系感冒剤 アスピリン ヒベンズ酸チペピジン リン酸ジメモルファン プラノプロフェン 塩酸セトラキサート	死亡	死亡	期外収縮及び心房細動の患者。発熱、咳、鼻症状、関節痛及び倦怠感があり、インフルエンザの疑いで、リン酸オセルタミビルを服用開始(併用薬は左記のとおり)。服用3日目の夜、家人に気づかれないまま車で外出。自宅より30km離れた海の岸壁で車が発見され、人が海に落ちた形跡あり。約2ケ月後、海中より死亡した本人が発見された。
256	B-06026847	男性	49歳	150mg	酒石酸ゾルピデム	自殺企図	回復	1日分処方1週間後、自殺未遂。首をつろうとしていたのを家族が発見。自殺未遂前に本剤内服していたかは不明。
257	B-05025724	男性	51歳	75mg	アセトアミノフェン アミノ酸・糖・電解質(2－3)	精神症状 自殺既遂	不明 死亡	肺結核後遺症に伴う慢性呼吸不全に感冒を合併し入院。経過は良好であったが入院7日目に院内でA型インフルエンザに感染。18時頃、両下肢のしびれ感などの合併があり、将来の健康に関して全般的不安を訴えていた。19時頃に本剤服用開始(体温39.2℃ありアセトアミノフェンを本剤とともに服用)。22時の体温は37.3℃。翌朝5時に生存を確認。6時30分病床不在確認、7時39分飛び降りて死亡しているのが発見された。自室のノートに遺書有り。
258	B-07000264	男性	51歳	150 mg	ジクロフェナクナトリウム アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン	意識変容状態	回復	インフルエンザ検査陰性。リン酸オセルタミビル投薬。夕方、本剤、ジクロフェナクナトリウム服用後、しゃべりにくくなり、また身体が痛く動けなくなる。夜中、他院に受診。インフルエンザ検査陰性。以後本剤服用せず。車で移動中に車から道路に出ようとした。
259	B-07000076	男性	54歳	75 mg	スピロノラクトン レボチロキシンナトリウム ニフェジピン 塩酸ジルチアゼム フロセミド	異常行動 譫妄 腎不全	不明 不明 不明	インフルエンザ罹患3日前、糖尿病により右足を形成外科にて手術を受ける。入院。 高熱あり。診断キットにてインフルエンザA陽性のため、リン酸オセルタミビル75mg1日2回服用。 夜、ベッドから降りベッドの柵に頭を何度も打つ、その後、部屋から出ようとし看護師に制止されるが暴れまくる。 後に意識が回復し看護師が暴れていたことを伝えたところ当時の記憶はなかった。 服用開始3日目、本剤投与後再度、異常行動、せん妄がみられベッドの上に立つ等の行動があった。CTにて脳出血等の異常なし。腎不全の疑いもあり。異常行動はジアゼパムで鎮静。
260	B-05020017	男性	56歳	150mg		精神症状(精神症状)	回復	インフルエンザ治療目的としてリン酸オセルタミビル投与。本剤服用4日目、夜分服用し2時間後に精神症状発現。突然うつ状態になり、自殺したくなる。窓から飛び降りたくなる衝動にかられる。翌日、精神症状回復したが、本剤服用を自発的に中止。

異常な行動が記録されている事例の概要(年齢順)(販売開始から平成19年9月30日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
261	B-05024386	男性	58歳	150mg	アミノフィリン リン酸ベタメタゾンナトリウム フロモキセフナトリウム 維持液(3) プロピオン酸フルチカゾン テオフィリン 塩酸フェキソフェナジン ファモチジン	意識変容状態 呼吸困難	回復 回復	A型インフルエンザの確定診断を受け、リン酸オセルタミビルを投与開始初日の夕方と就寝前に服用。投与開始から2日目の午前5時に呼吸苦が発現し、暴れ出した。また、意識障害が発現した。呼吸苦は発現当日に回復し、意識障害は発現翌日に回復した。
262	B-07000263	男性	58歳	150 mg	酒石酸ゾルピデム 鎮咳配合剤(1) ロキソプロフェンナトリウム テプレノン 乳酸リンゲル液(マルトース加) アセトアミノフェン	意識変容状態 譫妄	回復 回復	B型インフルエンザと診断し、乳酸リンゲル液、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン処方。夜、本剤服用2～3時間後、就寝。 服用2日目、朝、本剤服用中止。起床1時間後、意識障害、せん妄発現。患家より、本人の言動がおかしい(知らない人がここにいるとか、何か見えるとか幻視がある)との連絡有。起床3時間後、来院。全身の脱力感とせん妄状態あり。沈静目的でフェノバルビタール投与するも改善しないため、一過性の脳虚血発作を疑い、検査入院依頼。結果、脳虚血発作の可能性は薄いとのこと。昼過ぎ、点滴抜去や院内より脱走する様な異常行動あり、脳外科へ転科。インフルエンザは回復。 服用から3日目、意識障害、せん妄回復。
263	B-06025002	男性	59歳	150 mg		異常行動	未回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。異常行動発現。本人に記憶なし。本剤投与中止。本剤服用5日後、症状は回復傾向であるが、異常行動未回復。
264	B-06025118	男性	64歳	150mg	塩酸アミトリプチリン アロプリノール 沈降炭酸カルシウム アスピリン オメプラゾール マレイン酸エナラプリル ベシル酸アムロジピン アルファカルシドール ポリスチレンスルホン酸カルシウム	精神状態変化	不明	合併症としてうつ病、慢性腎不全あり。 発熱(39℃)、倦怠感あり、インフルエンザAと診断され、リン酸オセルタミビル投与。 翌日中、ぼんやりして立ちつくす。夜、不眠、じっとしていられず動き回る。 投与3日目、本剤服用中止(計5カプセル服用)。服用終了後5日目、落ち着かない様子あり。 服用終了1週間後、「死にたい」、「殺してくれ」と言い、落ち着かない。 服用終了10日目、体調不良を訴える。36.5℃の熱。ボーとしているが、落ち着かない印象あり。夕方、灯油をまき、自殺するつもりでマッチで火をつけたが、すぐに消火され保護される。

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）（販売開始から平成19年9月30日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
265	B-05018850	女性	67歳	150mg	インフルエンザHAワクチン 塩酸パロキセチン フルニトラゼパム 酒石酸ゾルピデム 塩酸ラロキシフェン アセトアミノフェン	劇症肝炎	不明	2日前、インフルエンザワクチン接種。 発熱、咽頭痛より、インフルエンザを疑い本剤5日間投与。 投与終了1日後、急性肝炎疑いで入院。 投与終了5日後、ベットより飛び降りたり、大声で叫ぶ。血漿交換のため転院。
266	B-06001534	男性	71歳	150mg	塩酸プラゾシン メチルドパ ロラタジン ヒベンズ酸チペピジン 非ピリン系感冒剤(4) 塩酸セトラキサート 鎮咳配合剤(1) セネガ	平衡障害 異常行動	回復 回復	A型インフルエンザで発熱(38.0℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から約2時間後に平衡機能障害が発現し、約5時間後に回復した。初回服用から約5時間後にリン酸オセルタミビルを服用し、約2時間後に異常行動（田植えをしている動作）が発現し、約24時間後に回復した。
267	B-06017551	女性	71歳	150mg	アミノフィリン アジスロマイシン水和物 モンテルカストナトリウム ブロチゾラム 塩酸クレンブテロール ファモチジン チアマゾール フドステイン プレドニゾロン アセトアミノフェン	譫妄	回復	喘息、甲状腺腫の既往歴あり。気管支喘息のため入院後、アミノフィリン、プレドニゾロン投与後、アジスロマイシン水和物を処方。発熱があり、インフルエンザAによりリン酸オセルタミビルの投与開始。4日後夜、失禁、夜間せん妄発現。翌日朝以降症状なし。5日後まで投与継続、インフルエンザ回復。
268	B-05000692	男性	72歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン	痙攣 意識変容状態	回復	38℃の発熱と咳嗽により受診、インフルエンザBと診断され、リン酸オセルタミビルを4日間投与。突然大きないびきと共に暴れ出す。意識障害と痙攣、全身間代性発作発現。7分後発作消失。意識は約1日半後清明となる。高CK血症、GOT、LDH上昇あり。

異常な行動が記録されている事例の概要(年齢順)(販売開始から平成19年9月30日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
269	B-05000875	男性	72歳	150mg	エスタゾラム トリアゾラム 酒石酸ゾルピデム ブロムワレリル尿素 エチゾラム ジアゼパム ワルファリンカリウム 塩酸チクロピジン 塩酸メトホルミン マレイン酸トリメブチン シルニジピン	譫妄(せん妄)	回復	脳梗塞、胃癌、不眠症、糖尿病、高血圧の既往症。39℃の発熱があり受診、インフルエンザBと診断され、リン酸オセルタミビルを投与。当日解熱したが、夕食後本剤を服用、同時に常用薬の眠剤も服用。その後せん妄が発現。部屋を引っかき回したように荒らしている。翌朝にはせん妄は回復。解熱まで眠剤の服用を禁止し、本剤と他の薬品の服用時間をずらすよう指示したところ発現せず。
270	B-05024268	不明	74歳	150 mg		異常行動 大腿骨骨折 幻覚	未回復 未回復 不明	A型インフルエンザで発熱(39.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの投与開始。投与開始当日に異常行動が発現した。投与開始から3日目にインフルエンザが軽快し、リン酸オセルタミビルの投与が終了した。投与終了翌未明、徘徊。投与終了後から2日目に2階より飛び降りて大腿骨を骨折した。
271	B-02013397	女性	79歳	150mg	硝酸イソソルビド バルサルタン オメプラゾール 酸化マグネシウム トリアゾラム センノシドA、B センノシド 塩酸パロキセチン水和物 マレイン酸レボメプロマジン	妄想 落ち着きのなさ	軽快	被害妄想顕性化のため入院加療、抑うつ神経症の診断あり。インフルエンザ感染症を疑い、リン酸オセルタミビル150mg/日5日分を処方。投与3日目未明、意味不明語、妄想、不穏、徘徊あり。他剤投薬により少しずつ精神状態安定化。本剤継続。本剤5日間の投与終了後、3日目に症状軽快し、経過観察中。
272	B-06016893	男性	83歳	150mg	テオフィリン コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム アミノフィリン 維持液(17)	譫妄	回復	慢性腎不全、洞不全症候群、脳梗塞の治療継続中。ペースメーカー留置。発熱、呼吸苦、低酸素血症、炎症反応によりインフルエンザ確定診断を実施。入院後、点滴(コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム、アミノフィリン)及びリン酸オセルタミビルを投与開始。2日目、落ち着きがなくやや興奮気味、せん妄発現、点滴投与中止。3日目夕方よりリン酸オセルタミビル投与中止後、ハロペリドール投与(3日間)。4日目せん妄回復。以降症状なし。

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）（販売開始から平成19年9月30日まで）

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
273	B-06025119	男性	83歳	150 mg	オルメサルタン　メドキソミル ベシル酸アムロジピン リン酸ジソピラミド アスピリン ワルファリンカリウム 塩酸ドネペジル レボフロキサシン ロキソプロフェンナトリウム	異常行動	回復	発熱38.2℃。A型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル投与開始。本剤投与開始3日目、昼前まで寝床にいた。異常行動（家をとび出し、軽トラか何かで家の周りを、数週まわっていた）出現。その後、除草剤を飲んだ。夜、嘔吐とけいれん出現。意識消失。インフルエンザ軽快・回復。
274	B-03008735	女性	85歳	150mg	乳酸リンゲル液 医療用酸素	全健忘	回復	上咽頭粘膜のインフルエンザA抗原陽性と診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与3日目まで有害事象発現せず。最終投与後未明に失見当識及び病棟内徘徊（但しミオクローヌスはなし）。翌朝も記憶力低下が観察される。患者家族と相談の結果退院後、処置なしで回復。但し、有害事象継続中の記憶は欠如のまま。
275	B-05024865	男性	85歳	150mg	アスピリン 酒石酸イフェンプロジル 塩酸タムスロシン ヒトインスリン（遺伝子組換え） 非ピリン系感冒剤（4） 臭化水素酸デキストロメトルファン スパルフロキサシン ジクロフェナクナトリウム	譫妄	回復	A型インフルエンザで発熱（38.5℃）が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から2日目にインフルエンザが軽快・回復した。投与開始から3日後にせん妄（窓を開けて外へ出るなど）が発現し、せん妄発現から3日目の朝にせん妄から回復した。

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）（販売開始から平成19年9月30日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
276	B-04027261	女性	90歳	150mg	セフトリアキソンナトリウム レボチロキシンナトリウム 硝酸イソソルビド アロプリノール 酸化マグネシウム センノシド フロセミド メナテトレノン エトドラク 塩酸タムスロシン パンテチン ポリスチレンスルホン酸カルシウム カルボシステイン 鎮咳配合剤(1) 桜皮エキス	譫妄	軽快	慢性腎不全、慢性心不全及び甲状腺機能低下症の既往あり。B型インフルエンザ陽性のため、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与（投与開始翌日より入院投与）。投与開始後3日目、せん妄発現。4日目、意味不明の言動、興奮、職員への暴力あり。5日目、意味不明の言動及び興奮は消失するも、覚醒度不良のためリン酸オセルタミビルの服用中止。投与中止後6日目もつじつまの合わない発語が時々あり。7日目、せん妄軽快。
277	B-05025587	女性	90歳	150mg	クラリスロマイシン レバミピド オキサトミド	幻覚 異常行動	回復 回復	発熱（38.6℃）があり、インフルエンザ患者と2日間の接触があったため、リン酸オセルタミビル及び併用薬処方となる（確定診断は行っていない）。投与1日後に平熱となる。本剤5回服用後の夜中、幻覚症状（大声で幻覚症状を訴える）発現し本剤服用中止。本剤中止3日後に幻覚、異常行動（外へ出て座っている等）は回復。
278	B-05001178	男性	94歳	75mg	ロキソプロフェンナトリウム 塩酸チクロピジン センノシド ニフェジピン	胃腸出血	死亡	慢性腎不全、脳梗塞、便秘、及び高血圧の患者。血液透析を約10年前から施行。インフルエンザA型と診断され、入院。当日の夕方リン酸オセルタミビル75mgを服用（併用薬は左記のとおり）。入院4日目の夕方、不隠な行動あり（少し認知症の気があった）、その後嘔吐（潜血反応＋）あり。その3日後の夜以降、下血が続き、深夜、呼吸状態が悪化し、血圧低下、心拍数低下となり、次の日の早朝、死亡を確認。

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）（販売開始から平成19年9月30日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
279	B-07013381	女性	94歳	150 mg	アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン 塩酸ベニジピン カルベジロール レバミピド クエン酸第一鉄ナトリウム アゾセミド アスピリン・ダイアルミネート カンデサルタンシレキセチル 非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン ピレノキシン	異常行動	回復	インフルエンザA型と診断し、リン酸オセルタミビル服用開始。服用1日目、夜間、訳のわからない発語とともに屋外に出て行ってしまったが、同日、異常行動回復。その後は特に異常行動はなかった。
280	B-07000403	女性	小児	150 mg		異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。3人兄弟全てインフルエンザに感染したが、当患者だけ、家の中を走り回るなど異常な行動が見られた。 翌日には回復しており一時的であった。
281	B-07013378	男性	小児	不明		異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用後、走行中の車からの飛び出し。異常行動発現。
282	B-07000209	男性	青少年	150 mg		異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用後、自分が透明になったなどと2時間くらい暴れる。母親らがしばらく押さえつけて事なきを得た。なお、患者はもともと精神科に通っている。

（参考）異常な行動が記録されている事例の概要（平成19年10月1日以降）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要
1	B -07015893	男性	12歳	150mg		異常行動 （とびおり）	回復	発熱39.2℃。夜間診療所にてインフルエンザA陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。 本剤初回内服1時間後、閉まっていた自室2階の窓とシャッターを開けて、飛び降りた。幸いテラスの屋根があり外傷認めず。飛び降りた際には支離滅裂な話をしていた。 投与2日目、部屋から一人で出て行こうとした。「トイレ？」と尋ねると、意味不明の返答。「こちらで寝なさい」と言うと、横になり眠った。 その後、本剤は継続したが、異常言動の再発はなし。 （平成18年2月の事例）